

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 26 日作成)

委員会名	木造建築構法小委員会	主 査 名：源 愛日児
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会	委員長名：
設 置 期 間	2000 年 4 月 ~ 2004 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	1)木造建築における新しい技術や構法開発の動向の整理 2)木造住宅構法の生産特性に関する調査・研究 3)日本の歴史的木造建築の構法の類型化 4)アジア各地の木造建築構法に関する体系的な情報収集	
委員構成 (委員名(所属))	源愛日児[主査](武蔵野美術大学),堀江亨[幹事](日本大学),大橋好光(熊本県立大学),河合直人(国土交通省国土技術政策総合研究所),木村勉(文化財建造物保存技術協会),栗田紀之(きがまえ研究室),黒坂貴裕(筑波大学),後藤治(工学院大学),福濱嘉宏(福濱嘉宏建築事務所),藤田香織(東京都立大学),前川秀幸(職業能力開発総合大学校),松留慎一郎(職業能力開発総合大学校),八木幸二(東京工業大学),山畑信博(東北芸術工科大学),吉田倬郎(工学院大学)	
設置 WG (WG 名:目的)	伝統木造構法 WG:日本の伝統的木造構法の木造架構の変遷を調査、解明しようとする意図を持ちつつ、そのための基礎的なデータベースの作成を目的としている。	
2003 年度予算	164,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	研究会 1: 6 月 9 日(月)14 名、研究会 2: 7 月 8 日(火)14 名、研究会 3: 10 月 21 日(火)11 名、研究会 4: 11 月 18 日(火)5 名、研究会 5: 3 月 2 日(火)9 名
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 1. 木造建築における新しい技術や構法開発の動向に関して、最新の研究成果をもとに研究会を行い、委員会資料を作成した。 2. 日本の伝統的木造建築に関して差鴨居接合部および土壁に関する実験結果をもとに研究会を行い、委員会資料を作成した。 3. 韓国の伝統的木造建築に関する最新の研究成果をもとに研究会を行い、委員会資料を作成した。 4. 伝統木造構法 WG(2000 年度より継続中)では、民家・寺院・城郭等の各種建築について、これまでに、作業中のもも含め 50 棟余りのデータベースを作成し、指付技法の変遷と架構の類型化に関する考察を進めている。その成果は大会学術講演において発表している。 以上の成果は、現状ではホームページ等で公開はしていない。
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 技術や構法開発の動向、および生産特性に関しては情報収集を進めている段階であり、今後、一定の成果が蓄積されたのちに取りまとめ、公表したいと考えている。日本の歴史的木造建築の構法の類型化については、伝統木造構法 WG において、異種建築のデータが蓄積され、指物架構の普遍性を展望できる段階に達した。アジア木造建築構法の情報収集については、今年度は韓国に関して一定の蓄積が得られたと考えている。
その他評価すべき事項	伝統木造構法 WG の研究成果は、今年度の大会学術講演において建築計画部門でなく歴史・意匠部門で発表した。これにより、異部門の研究者に対して指付け構法を研究する意義を認知してもらった機会をつくることができたと考えている。